

04・認識阻害の魔法で、朝のバスでも堂々とセックスする

〈シチュエーション〉

本編トラック03から数日後。

七月十日（水）七時過ぎ。

主人公と詩音が通う「音海（おとうみ）学園」へ向かうバス。

主人公と詩音は、一番後ろの座席に座って、認識阻害の力があるのをいい事に、堂々とセックスしている。

SE1 バスの環境音

【別途『バスアナウンス』と組み合わせ制作したものを、最初から最後まで流す】

【0―5秒ほど流して『詩音』のセリフ】

【その後、音量が小さくなる】

【ごく小さな音量で流す】

SE2 主人公が詩音のしっぽを、自分の膣内でしごく音

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【大きめの音量で流す】

【▲1 でSE3と切り替わる】

●【1】

■バスの一番後ろの座席で、主人公が上に乗る形で対面座位セックスをしている。もうだいたい絶頂が近い。

学校へ向かう朝のバスで気分が悪くなってしまったが、時間的にも場所的にもなだめてもらうのは難しいと考え、言えずにいた。

すると、主人公の方から触れてきてくれたのである。

それはとても幸せな出来事で、詩音は泣きそうになったが、まさか、挿入までするとは思わなかった。

いっぱいキスをして気持ちが悪くなり落ちてきて、安堵感で涙をこぼしていたら、気づけば尻尾を握られていた。『もっとしてほしい』という正直な欲望と『主人公の方から触ってきてくれて嬉しい』という喜び。それから『でも、さすがにここでは』という戸惑う気持ちで揺らんでいるうちに、詩音は主導権を完全に握られていた。

手でたっぷり尻尾を愛撫され、快感でばんやりしているうちに、主人公が跨ってきて：

…当然のように挿入してきたのである。

この光景に対する詩音の感想は『どっちがサキユバスだかわからない』。とても嬉しいが、あまりにも現実味がない。

何度でも言うが、詩音にとって、主人公は長年片想いした女神のような存在だ。

そんな彼女がここまで大胆に迫ってくるなんて、想像もできなかった。

そのせいで詩音にはこの現実を処理しきれず『あまりにもわけのわからないもの』……
いわゆる『風邪を引いた時に見る夢』のような感覚で受け入れている

●※鼻と口呼吸で※ 表現する

「【※しばらく※ ものすごくゆっくり、荒く、気持ちよさそうに、鼻と口で呼吸する。

呼吸はここから、段階を踏んで少しずつ早くなっていく。

ちよつと『受け身感』がある感じで。

『いかにもセックスしてる最中』と言うのがわかる感じで」

すううううっ……はーっ……♡

ふうううっ……はーっ……♡

すーっ……♡ はああっ……♡

ふーっ……♡ はああっ……♡

すううううっ……はーっ……♡

【低く、びくつと、漏れるように喘ぐ。

ものすごく気持ちよさそうに】

……う。

……んっ ♡

【※6回※ 荒く、ゆっくりめの、気持ちよさそうな呼吸。

快感に耐える呼吸】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあっ…… ♡

【低く、びくつと、漏れるように喘ぐ。

ものすごく気持ちよさそうに】

っあ……。

【低めに、うつとりと気持ちよさそうに喘ぐ】

ああ……。ああ……。ああっ…… ♡

【※12回※ 荒く、比較的ゆっくりめの、気持ちよさそうな呼吸。

快感に耐える呼吸。少し速度が速くなってきている】

はあ、はあ、はあ。

はあっ、はあっ、はあっ……。

はーすう、はーすう、はーすう。

はーすう、はーすう、はーすうっ ♡

【低く、びくつと、耐えるように喘ぐ。

ものすごく気持ちよさそうに】

……く

【低めに、うっとり気持ちよさそうに喘ぐ】

はああ……

あああ……

【低めな中に、比較的高くなって喘ぐ】

あ

【低めに、うっとり気持ちよさそうに喘ぐ】

あああ……

【低めな中に、比較的高くなって喘ぐ】

あ

あ……

【※6回※ 荒く、比較的ゆっくりめの、気持ちよさそうな呼吸。

快感に耐える呼吸。少し速度が速くなってきている】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあ……

■ 絶頂が近づいてくる。主人公が容赦なく攻めてくるので、とても耐えられそうにない。

受けに回った時の自分の『耐久性の低さ』が情けなくて、かえって面白いという感じで挿入しているのは自分なのに、犯されている気分

【苦しそうにしつつも、思わず笑ってしまっただけ。】

実際は『まずい、負けそう』という意味で『やばい』と言っているようなものなのだが、かえってそれが余裕ありげに聞こえる感じで。

一方的に主人公に攻められた結果、このままあっさり絶頂してしまっただけ。

『やばい』 || 『絶頂しそう』

ははっ……

やばい……

【※1回※ 軽くキスする】

ちゅ♡

【苦しそうにしつつも、思わず笑ってしまっただけ。】

実際は『まずい、負けそう』という意味で『やばい』と言っているようなものなのだが、かえってそれが余裕ありげに聞こえる感じで。

一方的に主人公に攻められた結果、このままあっさり絶頂してしまっただけ。

『やばい』 || 『絶頂しそう』

ふふふふ♡

やばいかも……♡

【※3回※ 軽くキスする】

ちゅ♡♡♡ ちゅっ♡♡♡ くちゅっ♡♡♡ 「

▲1 ここでS E 2が3と切り替わる

S E 3 主人公が詩音のしっぽを、自分の膣内でしごく音2

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【大きめの音量で流す】

【▲2 でS E 4と切り替わる】

●【1】

■しかし、このまま負けを認めるのはよくない気がする。

この光景を見ても誰もそうとは思わなさそうだが、主人公はMで、攻められるセックスが好きなのである。

だが、主人公が変わらず優しく献身的なのは事実だ。

トラック03までのあの日以降、主人公はこの通り、登下校も共にしてくれるようになった。そんなにも寄り添ってくれる主人公の気持ちに、詩音は少しでも応えたい。という

か、せめて性的な面だけでも、満足させたい。

そこで『主人公好みのSっぽいキャラクター』を演じられるように、精一杯頑張る

【低めに優しく、ナチュラルにセクシーに】

『びゅー』Ⅱ『主人公の膣内に分泌液を注ぎ込む』

『びゅー』は全部ゆっくり目に、興奮を煽るような言い方で】

……委員長。びゅーするよ？♥♥ びゅー。

いいんちよのまんこの中に『びゅー♥♥ びゅー♥♥ びゅーー……っ』 ってするよ？

ふふ♥♥

【※1回※ 軽くキスする】

ちゅ♥♥

【※6回※ 荒く、比較的ゆっくりめの、気持ちよさそうな呼吸。

快感に耐える呼吸。少し速度が速くなってきている】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあっ♥♥

【低めに、うっとり気持ちよさそうに】

あゝ……気持ちいい……♥♥

■でも、もう余裕をなくす。まだ経験が浅いせいで、快感が高まってくると『気持ちいい』と『主人公が好き』という事しか考えられなくなるので

【少しだけ早口で。

主人公の事が好きで好きでたまらないという感じで】

好きだよ……好きだよいいんちよ。大好き♥

【※17回※ 荒く、少し早めの、気持ちよさそうな呼吸。

快感に耐える呼吸。だいぶ速度が速くなってきている】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあっ……♥

はーっ♥ はーっ♥ はーっ♥ はーっ♥

はーすう、はーすう、はーすう。

はーすう、はーすう、はーすう、はーすう、はーすう♥

【低く、びくつと、耐えるように喘ぐ。

ものすごく気持ちよさそうに】

あっ……♥

【低めな中に、比較的高くなって喘ぐ】

ああ……♥

【低めに、うっとり気持ちよさそうに】

ああ……♥

【低めな中に、比較的高くなって喘ぐ】

ああ……っ ♡

【低めに、うっとりとした気持ちよさそうに】

はああっ…… ♡

■ 絶頂が近づく

【絶頂が近づいているのを、わかりやすく伝える。

低く、びくっと、必死で耐えるように喘ぐ。

ものすごく気持ちよさそうに】

うっ…… ♡ ……く！ ♡ ♡

くうううっ…… ♡

うっ！ ♡

▲ 2 ここでS E 3が4と切り替わる

S E 4 主人公が詩音のしっぽを、自分の膣内でしごく音3

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【大きめの音量で流す】

【▲ 3 でフェードアウトする】

●【1】

「【※12回※ 荒く、少し早めの、気持ちよさそうな呼吸。

快感に耐える呼吸。だいふ速度が速くなってきている】

…はあ、はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあ ♡

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあ ♡

【『ギリギリ耐えるが、もう絶頂しそう』という感じで】

っ……っ ♡

【※12回※ 荒く、少し早めの、ものすごく気持ちよさそうな呼吸。

『もうダメそう』なのが伝わってくる感じの呼吸】

はーすう、はーすう、はーすう。

はーすう、はーすう、はーすう ♡

【※ここで詩音が絶頂する※

頑張って耐えたが、こらえきれずにとうとう絶頂する、という感じで。

特にわかりやすく気持ちよさそうな演技にする事で、絶頂ポイントをわかりやすく伝えて下さい】

「あゝあゝあゝあゝあゝ………」

▲3 ここでS E 4がフェードアウトする

S E 5 詩音がしっぽから、分泌液を主人公の膣内に流し込む音

【最初から最後まで流す】

【大きめの音量で流す】

【少しもった印象の、身体の内側から聞こえてくるような音にする】

【▲4 でS E 6と切り替わる】

● ※移動※

● 【3】

■ 主人公の左耳側に頭を置いて話す。

いかにも『主人公に搾り取られた』という感じで、正直なところ敗北感で一杯。

でも嬉しい………と思いつつ、このままだと喜んでもらえないのではないかという危機感がある。

そこで、主人公のせいで止まらなくなっている分泌液について述べる。

『詩音が攻めた結果、主人公の膣内を征服するように分泌液が出ている』のではなく『主

人公が攻めた結果、負けた詩音から分泌液が出続けている』のが正解なのだが、あたかも前者っぽく聞こえる。

なので、実際は苦し紛れにやっているのだが、それが自然と『すごくSっぽい』

「【※1回※】 荒く、すごくゆっくりとした、気持ちよさそうな呼吸。

うっとりとしたため息のような感じで」

……はああっ……。

「低く、かすれ気味のセクシーな声でゆっくりと。

うっとり気持ちよさそうに。

『すっごい出てる』 Ⅱ 『分泌液が出続けている』

あ〜……♡

すっ、ごい出てる。

……わかる？

ちゃんとわかるように、奥の感じやすいとこで出してるよ……♡

ほら……」

▲3 ここまでSE5が6と切り替わる

SE6 詩音がしっぽから、分泌液を主人公の膣内に流し込む音2

【最初から最後まで流す】

【大きめの音量で流す】

【少しこもった印象の、身体の内側から聞こえてくるような音にする】

【次の『詩音』の赤文字セリフ『びゅーっ』に合わせて4回分流してフェードアウトする】

●【3】

■主人公の臆に、中出ししながら、その動きに合わせて話している

「【※※※までささやく※】

くすくすと嬉しそうに、満足げに】

びゅーっ……♡

びゅーっ……♡

びゅー……♡

びゅー……♡

……わかるでしょ？♡ ※

【低く、かすれ気味のセクシーな声のまま照れ笑いして。

大人っぽい声と、無邪気な発言の、ギャップがある感じで】

へへ。……またマーキングしちゃった。

これで委員長、もっと私のものだね……♡

【※3回※ うつとりと、ゆっくり満足げに呼吸する】

はあ……はあ……はあ……はあ……



【低めに、うつとりと気持ちよさそうに】

あー……



」

SE7 詩音がしっぽから、分泌液を主人公の膣内に流し込む音3

【最初から最後まで流す】

【大きめの音量で流す】

【少しこもった印象の、身体の内側から聞こえてくるような音にする】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【▲4 でSE8と切り替える】

●【3】

■そろそろ止まると思ったのに、全然終わらなくて笑ってしまう。

ちよつと戸惑っているようなそぶりを見せながらも、実際は『主人公主導で、バスの車内というとんでもない場所で、一方的に犯された』という事実に関心し、喜びを感じていたのかよくわかる

「【気持ちよさそうにしつつ、思わず笑ってしまつて。

思った以上に全然止まらないので」

ははっ………♥

まだ出てる………♥

【低く、かすれ気味のセクシーな声のまま照れ笑いして。

大人っぽい声と、無邪気な発言の、ギャップがある感じで。

『お腹一杯になっちゃおう』 Ⅱ 『子宮が分泌液で一杯になる』

これじゃお腹一杯になっちゃうね………♥

▲4 ここでSE7が8と切り替わる

SE8 詩音がしっぽから、分泌液を主人公の膣内に流し込む音4

【最初から最後まで流す】

【大きめの音量で流す】

【少しこもった印象の、身体の内側から聞こえてくるような音にする】

【次の『詩音』の赤文字セリフ『びゅーっ』に合わせて4回分流してフェードアウトする】

●【3】

「【※※※までささやく※

くすくすと嬉しそうに、満足げに」

びゅーっ……♡ びゅーっ……♡ びゅー……♡ ※

【※22回※ うっとりど、気持ちよさそうに呼吸する】

はあすう、はあすう、はあすう、はあすう。

はあすう、はあすう、はあすう、はあすう♡

●この辺りから【1】に移動していく

はーっ。はーっ。はーっ……♡

はーっ、はーっ。はーっ……♡

●※移動※

●【1】

「【※1回※ 軽くキスする】

ちゅ♡

■正面から主人公を見つめながら、『滅茶苦茶出しちゃった』理由を言い訳のように述べる
「くすくす笑いながら、うっとりど満足げに。

本人としては『あー私格好悪いなあ。完全敗北じゃん』という気持ちで言っているのだが、それがかえってSっぽく聞こえる」

ふう……滅茶苦茶出しちゃった。ごめん♡

でも、いいんちよの中あったかくてきつくて気持ちよくて……
挿（い）れてると歯止め効かなくなっちゃうよ……

■ 『滅茶苦茶出した』幸福感が、少し遅れてやってくる。とても幸せな気分

【ナチュラルにセクシーに、甘く。

優しく、でも有無を言わせない感じで。

本人としては、叶うかどうかわからない無茶な事を言って甘えているだけなのだが、それがかえってSっぽく聞こえる】

絶対ずーっと♡ 私のもだからね？♡

毎日エロい事してサキユバス汁（じる）注いで♡

もっと感じる身体にして♡

あたしとのセックス、一杯嬉しい身体にするからね？♡

【※4回※ 軽くキスする。

軽いが一方向的な感じで『主人公は私のもの』と言わんばかりのキス】

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅ♡ ん♡

【照れ笑いして嬉しそうに。

話しながら、キスに移行していく】

へへ……やっぱいいんちよの口、すごい美味しい……ちゅ♡

【※5回※ キスする。

舌を入れるねっとりしたキス】

ちゅっく……くちゅっ

ちゅっ♡ ちゅっ♡ ちゅくううっ……♡

■ 幸福感が凄い。とても甘い気分。

こんな事をされた主人公がとてつもなく興奮して、欲望のたぎった目で見つめてきている事に、詩音はまるで気づいていない

【うっとりと幸せそうに。】

『幸せで胸が一杯。この気持ちを伝えずにはいられない』という感じで。

『めっ……ちや』に特に気持ちを込めて】

はあ……大好きだよ。

めっ……ちや幸せ……♡

愛してる……ほんとありがとうね。

【うっとりと幸せそうにため息を漏らす】

はああっ……♡

【※1回※ 軽くキスする】

ちゅ♡

〈主人公〉

「……………」

SE9 詩音と主人公が抱き合う音

【最初から最後まで流す】

●【1】

■主人公が無言で、ぎゅっと抱きしめてくる。

詩音は全身で、主人公からの愛情とセックスへの満足感を感じとる。

照れくさいけれど、とても幸せな気分。精神的な距離がまた縮まった気がする。

このように詩音は完全に事後の気分だが、主人公は全く逆である。

主人公としてはそのサインを露骨に出しているつもりだし、匂いでも容易に嗅ぎ取れるはずなのだが、幸福に浮かされている詩音は気づいていない。まだ力をコントロールしきれていないのである

「【ちよつと照れたように、でも嬉しそうに切り出す】

……………でも、まさか『ここでしよう』なんて言われると思わなかったよ……………? ♡

【ちよつとにやにやと嬉しそうに。

ちよつとからかうようにしつつ、本当は何だか嬉しいので。

『ガチ』 Ⅱ 『濃厚な行為』 『サキユバス』 Ⅱ 『性に奔放で積極的な女性』

だってここ、バスだよ？

朝からガチすぎ♥

これじゃ、いいんちよのがよっぽどサキユバスじゃん……♥

【※1回※ 軽くキスする】

ちゅ♥

〈主人公〉

「……ダメだった？♥」

●【1】

■主人公の蠱惑的なリアクションにドキドキするあまり、たじたじになる。

『主人公の方がよっぽどサキユバスらしい』という自分の指摘は、つくづく的を射ていると思う。

トラック03までの出来事……特に、初めて尻尾を挿入した時から、主人公は何だか変わってしまったように思える。

それは、あの出来事がきっかけで主人公が詩音を恋愛対象として意識するようになり『助けを求めてくる』『守ってあげたくなる』姿と、セックスで一生懸命リードしてくれようとする健気さが可愛い。自分達の関係になかなか自信を持ってない様子なのも、気持ちかわか

る分愛おしい。沢山優しくして、受け止めて、安心させてあげたい。後やっぱりセックスは滅茶苦茶気持ちいいので、一杯したい』と思うようになったからなのだが、詩音はそれを理解していない

「ちよつと恥ずかしそうに。」

主人公の言葉にドキドキしている感じで

んーん。……ダメじゃ、ない。

「もじもじと、でも勇気を出して自分の気持ちを伝える。」

主人公が優しく受け入れてくれるので、以前よりも正直になれている」

嬉しいけど。

あたしはすっ、ごい。嬉しいけど……」

〈主人公〉

「……よかった♡」

●【1】

「【※4回※】キスする。」

主人公から一方的にされる、受け身のキス」

……ん♡

ちゅ♡♡ ちゅっ♡♡

ちゅくうっ♡♡

■嬉しい一方で、ちゅっとな不安にもなり、ちゅっとな主人公の気持ちを試すような事を聞いてしまう。

『自分自身が好きなのではなくて、セックスが気持ちいいから、そんなに積極的になのか』と質問する

【ちゅっとな甘えたような、すねたような声で。『そんな』 || 『そんなに』

『熱いの』 || 『分泌液』

……ねえ、そんなセックスハマったの？

サキユバス汁（じる）中出しされんの、そんないいの？♡

お腹に熱いの注がれると、全部どうでも良くなっちゃうの……？♡

【※1回※ 軽くキスする】

ちゅ♡♡

〈主人公〉

「それもあるけど……それだけじゃないよ？」

●【1】

「【ちよっとすねたように、甘えた声で続きを促す】
うん？」

〈主人公〉

「詩音ちゃんが気持ち良さそうにしてくれて、調子が良くなって。元気になってくれるのが、一番嬉しいよ……♡」

●【1】

「【切なげに言葉を詰まらせる。】

自信のなさゆえに試すようなみっともない発言をしたのに、主人公はちゃんと理解して、余裕で受け止めてくれるので」

っ……♡」

〈主人公〉

「よかった。顔色良くなったね。」

さっきまで真っ青だったもんね……」

●【1】

■ 『そこまで見ていたのか』という気持ちになる。

結果的にはちよつと激しすぎる行為になった気はするが、やはりたった今のセックスは、主人公の詩音を案ずる気持ちから始まったものだったのだとわかり、嬉しくなる。

同時に、愚かな質問をした自分が急に恥ずかしくなる。

大人っぽくて、主人公をドキドキさせる女性になりたいのに、実際の自分はちよつと子どもっぽいのではないかと不安になる

「【ちよつとばつが悪い事に。でも、ちよつと嬉しそうに。

『私の具合が悪い事、気づいてたんだ……』という感じで

あく……♡」

〈主人公〉

「なかなか体調安定しないよね。

もう少しかかるのかな。

一杯して、少しでも早く楽になれるようにしようね」

● 【1】

「【ぼそぼそと、もごもごと。でも嬉しそうに。

『一杯して』という言葉にちよつと期待してしまう】

……まあ……♡

それは、そうなんだけど」

〈主人公〉

「朝は特に辛いつて言ってたもんね？

この前みたいに泊まってってもらえたらいいんだけど……毎日ってわけにもいかないし。だからせめて、一緒にいられる時は、少しでもしてあげたくて。だから、いいよ？

……どこでも。していいんだよ……？♡」

●【1】

■主人公の優しさが嬉しくて、胸がきゅんとなる。

それとともに主人公の『セックスがしたくてたまらない』『認識障害の力があるのだから、本当にいつでもしてくれて構わない』という感情も同時に嗅ぎ取る。

つまり、主人公の優しさは偽りのない本物だが、このとんでもない性欲もまた本物であると理解する。

とても嬉しいが、ちよつと複雑。

自分はこんなに悩んでいるのに、主人公の欲望に忠実すぎる。

『詩音の事は絶対に助けるし、セックスもものすごくしたい』が本音だなんて『人の気も知らないで……』と、ちよつと参ってしまったというか、ちよつと『むっ』とも来る。

でもやっぱり、自分の愛も欲も受け入れてもらえているのが嬉しくて、困ってしまう

「【困ったように、あまあまに言葉を詰まらせる】

……っ ♡

■ 主人公の指摘を復唱する

【ぼそぼそと、もごもごと。でも嬉しそうに】

体調……まだ安定してないし、朝は、特にしんどい。

確かに、その、通りなんだけど。

朝させてくれたら、あたしは凄く助かる、けど……」

〈主人公〉

「でしょ？ 遠慮しなくていいんだからね…… ♡」

● 【1】

■ 主人公に対して、ひねくれた甘え方をする。

今の言葉からは明らかに『今からでももう一回しましょうか』と言わんばかりの欲望の匂いが嗅ぎ取れたからだ。

これに対して『むかつく』という気持ちもあるし、素直に感謝する気持ちもある。

今の主人公の事を『声もかけられずに片想いしていた頃よりも、ずっと大好きだ』という気持ちと『何なんだこの人は……思ってたのと随分違う……ちよつと性欲が強すぎやしないだろうか……』という、呆れのような気持ちの両方がある。

それが複雑に同居した結果『あまあまに言葉責めする』という形になる

「かわいく怒る。全然怒っていない感じの声で、あまあまに」

『でしょ？』じゃないよ……♡

「あまあまに言葉責めする。」

全部本音だが、『そこがむかつくけど大好き』という感じで。

先に進むにつれて『甘えてる感じ』『好きで好きで仕方がない感じ』が強まっていく
このエロエロ委員長。

えっち。ドM、どすけべ♡

いくらあたしが、しんどくなつたからって。

認識障害で、わかんないからって……♡

【『こんなところ』 || 『バス』】

こんなところでしようだなんてやっぱ変態すぎ♡

■かねてから主人公に『言ってるやろう、言ってるやろう』と思っていた事が爆発する。

しかし本気でこう思っているわけではなく『ちよつとどうかしてるとは思うけどそこが

好きだし、救われた』と思っている

「甘ったるくかすれた声で。」

『もう困ったよお、何考えてるの！ ……それでも好きだけど……』という感じで。

セリフ終わりに向かって、ますますあまあまさを増していく」

……痴女じゃん……こんなエロいと思わなかった……

もうさあ、返して？ マジ返して？ ♡

私の知ってる真面目で優しいいんちよ返して？

私の大好きなあの人、どこ行ったの？ ♡

〈主人公〉

「ここにいるよ？」

●【1】

■主人公が即答したので『こういう反応をするんだ……！』と内心意表をつかれる。

でも、全く嫌ではなく、この『負けてしまう感じ』がちよっと嬉しい。

実を言うと詩音にも、ちよっとMっぽいというか、好きな人に振り回されて喜ぶところがあるのだから。

「あまあまこ。」

言葉では主人公の発言に否定的だが、声は全くそうではない感じで
はあく……？❤

〈主人公〉

「ここにいて、詩音ちゃんの事、ぎゅーってしてるよ？」

●【1】

■憎まれ口をたたきつつも、もう完全にイチャイチャ会話しているだけになる

「あまあまに。」

言葉では主人公の発言に否定的だが、声は全くそうではない感じで。

『ここにいるよ❤』は『ちよっとわざとらしく、甘ったるく言う』事で『オウム返し』
感を軽減する」

もおお……❤

『ここにいるよ❤』とかさあ❤

どのツラ下げてって感じなんだけど……❤

【※1回※ 軽くキスする。

ちゅぱつと音を立てるようなキス」

ちゅ❤

■ 『でも、確かにその通りなのかも』と思い始める。

確かに主人公は思ったより、かなり性に積極的すぎる。

だが、少なくとも『優しい人』である事に変わりはない。『ただセックスがしたいだけ』と解釈するには無理があるくらい、詩音にずっと尽くし、思いやってくれているからだ

『真面目』かどうかは、大いに議論の余地がある。……だが、少なくとも『詩音の問題に真剣に向き合ってくれている』という点では、確実に真面目だ。

彼女は詩音の想像とはずいぶん違ったのも事実だが、詩音が好きだと思う、彼女の一番の美点はしっかりと残っている。

『確かに、『真面目で優しい私の大好きな委員長』はここにいる』と思えるようになる

【少しだけ真面目なトーンになって。

先に進むにつれ、どんどん主人公へのいとしさが増していく感じで】
……でも、そうだよね。

無茶なお願いしたのに、聞いてくれて。

私の身体がこんな風になった事にも、真剣に向き合ってくれて……。
ほんとはこんなエロかった癖に、ずっと優しくして……。

こうやっていつも『おいで』ってぎゅってしてくれるの、私の大好きな人過ぎる……。♥

【甘ったるく、現状に対する違和感を訴える。
この現状は、詩音にとって都合がよすぎるので。

『こんなに都合のいい事があってたまるか。おかしいよ』という感じで
こんなのおかしいよ。

私、サキユバスになったから。

いいんちよのセフレになって、せめて都合いいやつになって。

恩返ししようと思ってたのに。

【困ったように訴えかける。

『これじゃいいんちよの方がよっぽど私に尽くして、都合のよすぎる女性になってる』
と言おうとして途切れる」

これじゃいいんちよの方がよっぽど……♡」

〈主人公〉

「……………」

●【1】

■詩音の言葉をわざと遮るように、主人公がキスしてくる

「【※5回※ 軽くキスする。

受け身の、ちゅぱつと音を立てるようなキス」

……ん♡♡
ちゅ♡♡

ちゅ♡♡♡ ちゅ♡♡♡ ちゅっ♡♡♡ 「

〈主人公〉

「ふふふ♡♡♡」

●【1】

■今、主人公が自分の言葉を遮ったのは、彼女なりの優しさだと理解する。自分に気を遣わせまいとする主人公の事が途方もなく好きだと思い、思いつき甘えたくなる。

そこで、最後の確認をするように尋ねる。

すでに何度も『好きだ』と伝えてはいるが、改めて告白するような気分

「甘ったるくかすれた声で。

ちよつとすねたような感じで。『いいの？ いいの？』と甘えるように確認している。

『こんなにされたら』||『こんなに優しくされたら』

…ねえ。こんなにされたらあたし、甘えなくなっちゃうよ。

【あまあまに、切なく訴えかけるように、告白する】

ずつと好きだったんだから。

ずつと好きだったんだから…♡♡♡

【※しばらく※ キスする。

しっかり舌を絡める、濃厚なキス】

ちゅ♡ ちゅ♡ ちゅっ♡

くちゅる…れるるるるっ、ふちゅっ♡

〈主人公〉

「いいんだよ。甘えて。

怖かったよね。

私は詩音ちゃんの彼女で一番の味方なんだから、甘えていいんだよ?♡

ほら、おいで?」

●【1】

■嬉しさと少しの悔しきで胸がいっぱいになる。

自分がいかに『おいで』という言葉に弱いのか、主人公は知っているはずだ。

なのにその言葉をあえて使う事で、詩音を甘くて幸せな方の道にいざなっていると、詩音でもわかってしまう

「【ちよっとすねたように観念する。

『『おいで』なんて言われたら、もう絶対甘えなくなっちゃうよ』という感じで】

うん……甘える。

おっぱい欲しい……♡

【甘えた声のまま、意地悪を言う。

素直にいう事を聞いてしまうのが、ちよつと悔しくもあるの
いいんちよのエロ乳首吸う……♡】

SE10 詩音が主人公のブラウスを脱がす音

【最初から最後まで流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

●【1】

■主人公の制服のブラウスのボタンを外し始める

「ん……♡

【※しばらく※ ゆっくりだが荒い、興奮気味の呼吸をする。

『必死に抑えようとしているが、こらえきれない』という感じで】

はあ……♡ はああつ……♡

すううっ……ふー。

すうううっ……ふー……♡

『甘え方の一つとして、意地悪を言ったり、からかったりする、自然なS』の状態に移行していく

【低い声で、興奮を抑えきれない感じで】

あく……♡ すご……♡ めっちゃ乳首勃（た）ってる……♡

■乳首を口で愛撫し始める

●※移動※

●【1】 下30センチ

●※頭を、主人公の胸のあたりにもっていきながら話しているイメージ※ で

【※しばらく※ 吸ったり、舐めたりする。

まだ比較的控えめに、優しく】

れるっ……♡

ちゅっ♡ ちゅ♡ ちゅ♡

ちゅうっ……♡

■流れ込んでくる、主人公の興奮や高揚の感情がやっぱりちゅっと『むかつく』。

先程のように、ちゅっと意地悪を言ってやりたくなる

【音を立てて唇を離す】

ちゅぶっ♡

【あまあまに罵る。『こういう事』 || 『バスの車内で胸を露出させて、乳首を吸う事』】

はああ……っ ♡ この変態 ♡

何（なん）かさあ…… ♡

私がこういう事してもね？ ♡

慈悲？ 博愛？ 的な匂いしかなかったら。

【『部分をほんのちよつと芝居がかって』

『この人天使。私の為に優しすぎる……』とか思えたのに。

バスで生乳（なまちち）出されてすっごい興奮してるの、やばいでしょ ♡

〈主人公〉

「……っ…… ♡」

● 【1】 下30センチ

「【※しばらく※ 夢中で音を立てて吸ったり、舐めたりする。

わざと音を立てている感じで」

んっふ……ちゅぱっ ♡

れるれるれる、れるれるれる ♡

れるるるるっ……ふちゅっ ♡

んんんう……ちゅぱっ ♡

【あまあまに罵る】

この露出癖の変態女。犯されて喜ぶドM ♡

優しくしたい気持ちも、やりたい気持ちも同じ位って最悪 ♡

【※3回※ 少し早めの、興奮気味の呼吸をする】

はあ、はあ、はあ。

【かわいく、でもちよっと切なげに、困り果てた様子で。

『もう許せない！ ひどい！』という感じで】

好きすぎて情緒おかしくなる…… ♡

【※しばらく※ 夢中で音を立てて吸ったり、舐めたりする。

わざと音を立てている感じで】

ちゅっ ♡ ちゅっ ♡ ぺるぺる……っれるっ ♡

れるるるるるっ……ちゅるっ ♡

ちゅっ ♡ ちゅっ ♡ ちゅっ ♡

【※2回※ 少し早めの、興奮気味の呼吸をする】

はあ…… ♡ はあ…… ♡

■ 乳首を吸いながら、乳房も触る

【うっとり幸せそうに。

『気持ちよくてしようがない』という感じで】

あゝ……おっぱい柔らかか……♡

●※※まで、乳首を吸いながら話しているイメージで※ 話す。

声が聞き取りにくくなっても、正確にセリフの通り言わなくてもOKです

【『触ってるだけで、すごい脳にクゝる』】

しゃびゅってふらへで、ひゅほい脳にクひゅ……♡

【『こんなエロい乳して、よく今まで普通に生きてこれたよね？』】

ひよんはえふおい乳ひへ、よふいひやひやでふひゅうに生(い)ひへこへたよね？♡

【『こんなのっ……こんなのっ』】

ひよんなのっ……ひよんなのっ♡

【『あたしじゃなくても絶対触りたくなるし』】

あたひじやなふてもぜっひやい触りたくなるし♡ ※

■『好きで好きでしようがない』という気持ちと『魅力的すぎて、誰かに取られそうで不安』『なのになそれを、本人はまるでわかっておらず、のんきに性に溺れている』という気持ちが入り混じった結果『むかつく』になる

【あまあまに怒って。】

『マーキング』Ⅱ『膣内に分泌液を定期的に注ぐ』と、『他の人に取られないように』の2つの意味】

心配で心配でむかつく♡

こんな、優しくてスケベな人っ♡

絶対マーキングしなきゃダメじゃん♡

【※6回※ 少し早めの、興奮気味の呼吸をする】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあ♡

■主人公の乳首について述べる。

『むかつく』『でも大好き』と思っただまま、感じるままに責めたり、話したりしていく。するとそれが自然とSっぽくなって、無理に演じなくても主人公を喜ばせていく

【低めに、うっとり興奮気味に】

はああ……硬(か)っ、たあ……♡

【低めに、興奮気味に、ちよつと意地悪に】

何(なん)でこんな硬くなんの……?♡

乳首エロ過ぎだから……♡

【※4回※ 早めの、かなり興奮気味の呼吸をする】

はー、はー。

はー、はーっ♡

【低めに、興奮気味に、ちよつと意地悪に】

やっぱ……♡ 興奮して血が集まって♡

フル勃起してんじゃん……♡

【※8回※ 早めの、かなり興奮気味の呼吸をする】

はあ、はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあ、はあ、はあ♡

【※しばらく※ 夢中で音を立てて吸ったり、舐めたりする。

わざと音を立てている感じで。

音で主人公の興奮を煽りたい】

んっふ……れるっ♡ ちゅぱっ♡ ちゅぱっ♡ ちゅぱっ♡ ちゅぱっ♡

べるべる……れるっ♡ ちゅ♡ ちゅっ♡ ちゅっ♡ ちゅっ♡

【低めに、うっとり興奮気味に】

はあっ……ああ……♡ 凄い……♡ 最高……♡

勃起乳首エロい……♡

【うっとり興奮気味にため息をつく】

はああ……♡

大好き……♡

ずっと捏（こ）ねれるこの乳首……♡

【※9回※ 早めの、かなり興奮気味の呼吸をする】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあ。

はー、はー、はーっ ♡

● ※移動※

● [1]

■ 主人公の正面に戻って、胸を触りながら話している。

もう、いよいよ我慢できなくなって。

サキユバスのちに振り回されているのではなくて、もう、心から主人公に挿入したくてしたくてしょうがない。

これまで感じていた申し訳なさや恥ずかしさ、外聞など全部投げ捨てて、あまあまに懇願する

「本気で、めちやくちやに甘ったるくおねだりする。

ほんの少しだけ早口気味に。

『もう我慢できない、絶対そうしたい。絶対そうさせたい』という感じで。

『幸せしたい』 Ⅱ 『気持ちよくなりたい』

『マーキングびゅっぴゅ』は一つの単語で『マーキングするように膣に分泌液を注ぎたい』という意味

ねえいんちよおく…… ♡

もっかい ♡

もっかいハメたい ♡ ハメよお？ ♡

バスで二回目生ハメしたい ♡

もっかい対面座位でしょ？ ♡

いいんちよに生ハメ中出しして幸せしたい ♡

朝のバスで好きな子とパコって ♡

マーキングぴゅっぴゅして嬉しくなりたい ♡

ねえしよお？ ♡ いいでしょお？ ♡

させてくれたら一杯いじめてあげる ♡

ドエロいいんちよが一番感じるセックスするから ♡

ね？

しよお？ ♡

このまま ♡

このまままた入らせて ♡

〈主人公〉

「…………おいで ♡ ……っ ……いっぱいしよ ♡」

SE12 詩音が移動する音

【最初から最後まで流す】

【だんだん少し離れる】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

● ※移動※

● 【9】

● ※挿入のために、一度少し離れるイメージで、離れながら※ 話す

「【※6回※ 早めの、ものすごく興奮した呼吸をする】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあっ……♡
」

SE13 主人公が詩音のしっぽを触る音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【だんだん音が大きくなる】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【▲5 でSE14と切り替わる】

■主人公が、尻尾を手で愛撫する。もはや手馴れていて、恥ずかしいような、すっかり手玉に取られて悔しいような、でもやっぱり嬉しいような、何とも言えない感情に襲われる
【ちよつと驚いて。でも嬉しそうに】

あ………♥

【思わず笑ってしまつて。

にやにやとからかう。主人公が、あまりにも積極的なので】

はは……めっちゃ尻尾弄（いじく）つてくる……エロ♥

超やる気じゃん……♥

【※8回※ 早めの、ものすごく興奮した呼吸をする】

はーすう、はーすう、はーすう、はーすう……」

● ※移動※

● 【1】

● ※挿入のために、ずっと近づくイメージで、近づきながら※ 話す

■主人公が、尻尾を手で握ったまま、詩音の上に跨り直す。

トラック02で触れた通り、身体的にも少し強くなっている詩音は、主人公のような若い女性に乗られた程度では特に辛くもない。

なので、思い切り跨ってもらいながら、尻尾を主人公の制服のスカートの中に入れ、絡ませて挿入していく

「小さく、漏れるように喘ぐ。

気持ちよさそうに」

あ………
」

▲5 ここでSE13が14と切り替わる

SE14 主人公が詩音のしっぽを自分の膣に挿入する音

「最初から最後まで流す」

「次の『詩音』のセリフの赤文字部分と同時に流す」

●【1】

「小さく、漏れるように喘いで、呼吸する。

挿入が始まるくすっぽり入る」

……うあ………あ

はあああっ………

き、た………

■しっかりと挿入して、中で形状を変えて、セックスを始める

【※6回※ 少し早く、うっとりとした気持ちよさそうに呼吸する】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、ふうっ……♡

■これまでで一番、と言えるほどの強い快感が、のっけから押し寄せる。

サキユバスは、同じ相手と行為を繰り返せば繰り返すほどより気持ちよくなる
【低く、小さく、ゆっくりと。

『気持ちよすぎて耐えかねる』という感じで喘ぐ。

ものすごく気持ちよさそうに】

ああ……いいっ……♡

あゝ……好き。

あゝ……好き♡

委員長好きっ……♡」

SE15 詩音がしっぽを主人公の膣内で動かす音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【少し大きめの音量で流す】

【▲6 でSE16に切り替わる】

●【1】

「【※しばらく※ 夢中でキスする。

お互いに舌を積極的に絡ませる濃厚なキス】

んっふ……ちゅ♡ ちゅ♡ んんう……ん♡ ちゅ♡

んんんう……ん♡ ちゅ……♡

【※6回※ 早めの、ものすごく興奮した呼吸をする】

はあ、はあ、はあ。

はあ、はあ、はあっ……♡

■主人公が少し離れた位置の座席を気にしている様子なのに気づく。

詩音がちらりとそちらへ視線をやると、同じ学校の女子が二人を凝視していた。

認識障害の力が作用しているお陰でセックスしているとは認識されていない。

だが、今の詩音の力ではかかり方がさほど強くない。

なので、彼女には『同じ学校の女の子二人が、バスの車内で堂々といちゃいちゃして

ると思っていたら、とうとう夢中でキスし始めた』という風に二人が映っている

【優しく、余裕ある感じで。

主人公の言葉を待つ」

ん〜……？

【にやにやと嬉しそうに。

興奮を煽る。主人公が『見られて興奮している』事はもう、重々承知なので

あく……あの女の子、さっきからめっちゃ見てるね……♡？」

● ※移動※

● 【3】

■ 主人公の左耳側に頭を寄せて、話し始める

「ひそひそと、ささやくように。

にやにやと嬉しそうに。

主人公の興奮を、存分に煽る。

『エロキス』 Ⅱ 『非常にいやらしい、濃厚なキス』

そりやそうだよ、あたし程度じゃまだ、誤魔化すにも限界あるもん……♡

この前も言ったけど。流石にハマちゃってるとこ近くで見られたらさあく……♡

『バスン中で堂々とエロキスしてる』位には、見えちゃってると思うんだよね……♡

ヤバイね♡

委員長。めっちゃ清楚系なのに、

【少し言葉を詰まらせる。自分を『主人公の恋人』という自信がない】
……っ」

〈主人公〉

「彼女♥」

●【3】

■主人公の言葉が、途方もなく嬉しい。

たった『彼女』の二文字でこんな嬉しくなるなんて、我ながらちよつと愚かだと思っ
ても、嬉しい。それだけで何でもできそうな気がしてくる

「【恥ずかしそうに、でもすごく嬉しそうに。】

主人公の方から自分を『彼女』と呼んでくれた事が、申し訳なくもすごく嬉しい】

……彼女と♥

【ひそひそと、ささやくように。】

にやにやと嬉しそうに。『盛りまくってる』『人目もはばからずいちゃいちゃしている』
彼女と朝から盛（さか）りまくってるって、噂になっちゃうね……♥

【小さく。でも、ものすごく気持ちよさそうに。】

『思わず声も出せなくなるほど気持ちいい』という感じで】

あ………
「

● ※移動※

● 「1」

■ 主人公の正面に頭を戻して、目を見ながら言葉責めする

「高めに、あまあまに煽り、罵る。

かわいく怒って、言葉責めする。心から思っている事を言うだけで、すごくSっぽくなる」

何（なん）でこれで締まんの♡

マジの変態じゃん♡

■ この期に及んで、ちよつと試すような事を言ってしまう。

卑屈で自信のない自分が、まだ出てしまう

あたしと噂になるの嬉しいの？♡

それとも見られてここまで興奮してんの？♡

〈主人公〉

「うん♡ そうだよ？♡ どっちも、だよ。

わたし、詩音ちゃんの言う通りの人間なの。

マジの変態で最悪な女なの。

だから思いつきりして？

詩音ちゃんのしたいように、思いつきりして？」

●【1】

■たとえようもないほど嬉しくて、幸せ。

でもやはり、同時に腹立たしい。

愛情と性欲を同率で自分に抱く主人公という女性の事が、大好きで『むかつく』

「【低めに、あまあまに、物凄く嬉しくて、幸せそうに。

言葉と声がまるであっていない感じで」

うわ……♡ さいてー。

……最悪。

【うっとり熱っぽく。

物凄く嬉しくて、幸せそうに】

好き♡

好き……好き。超好き……♡

【高めに、あまあまにかわいく不満そうに。

『でもそこが好き』と言うのがあからさまな感じで。

『勝手にちよつと動いてんの』 Ⅱ 『許可なく腰を動かして、一人で快感を貪っている』

この人ただの変態なのにこんな好きでやだあ……♡

もう勝手にちよつと動いてんのほんとエロくてやだ♡

【※4回※ 低く、気持ちよさそうに唸るように呼吸する。

聞き手に『ちよつと怖い位興奮して、これから本気えっちされそう』と言うのが伝わる
感じで」

はーっ……♡ はーっ……♡ はーっ……♡

はーっ……♡

【低く、気持ちよさそうに、セクシーに。

『もう怒った。本気出す。絶対滅茶苦茶気持ちよくする』という感じで。

※怖すぎたり、これまでとギャップがありすぎたりしないように、ナチュラルな移行を
意識してお願いします※」

もうマジで犯す……♡」

▲6 ここでSE15が16に切り替わる

SE16 詩音がしっぽを主人公の膣内で動かす音2

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【少し大きめの音量で流す】

【▲7 でSE17に切り替わる】

● ※移動※

● 【3】

■ 主人公の左耳側に頭を寄せて、話し始める

「【※※※までささやく※

低めに、優しく、切なげに。

ひとつ前のセリフとのギャップで、聞き手をドキツとさせる。

※一番重要なセリフとして演じて下さい。『詩音の本音と、詩音の本質は、この一言に詰まっているんだな』『本当は臆病で奥手な女の子が、好きな人のために精一杯尽くそうとした時、自然とこの言葉が出たんだな』という感じで。

『好きなの』Ⅱ『主人公好みのセックス』

好きなの、一杯してあげるね………♡※

【小さく、気持ちよさそうに喘ぐ】

んっ………!♡

【※3回※ ゆっくりと、気持ちよさそうに呼吸する】

はーっ……♡ はーっ……♡ はーっ……♡ 「

● ※移動※

● 【1】

● ※ここからトラック終わりまでずっと気持ちよさそうに※ 話す

■ 正面に向き直って、『すぐに自分からは動かず、言葉で煽って主人公の方を動かす』という方針で、本格的に出し入れを始める。

主人公好みの事をして喜ばれたい気持ちも、やりたい放題の自由すぎる主人公に反撃したい気持ちも、同じ割合で存在している。

そうなった事で、愛情と性欲が同じ比率で存在する主人公の気持ちも、少し理解できたような気がする……いや、やっぱりあれに関してはこちらよつと腹立たしい。思いつきやり返してやろう。という気持ちで、言葉責めしていく

【低めに、あまあまに優しい声で意地悪を言って煽る。

サキュバスの尻尾を挿入されて感じている主人公に『そちらからも積極的に、尻尾に奉仕するように動け』と促している。

『良いところ』 Ⅱ 『特に気持ちいいところ』

……ほら♡

もつと♡ もつと腰振れ♡

一杯イきたいんでしょ。一杯動かないと抜いちやうよ……？♡

あたしの尻尾が良（い）いとこ当たるように、腰振ってぬぽぬぽしな？♡

ほら、頑張れ？♡

でないとあたし動いてあげないよ……っ？♡

ほら振れ♡ 振れ振れ振れ♡

【低めに、こらえるように、とても気持ちよさそうに喘ぐ。

早くも余裕を失ってしまいそう】

……うっ♡

あっ……♡

【高めに、こらえきれない様子で、とても気持ちよさそうに喘ぐ。

主人公の動き方が的確で、翻弄されている感じで】

あっあっあっ♡

あっあっあっ♡

あっあっあっあっ♡

【※4回※ 快感をこらえるように呼吸して。

それから再び低めに、あまあまに優しい声で。

今度は『褒めているのが言葉責めになる』タイプの意地悪を言う】

はーすう、はーすうー…：偉いぞ♥ 偉い♥

自分からまんこいじめられたがって偉いね♥

まんこでサキユバス尻尾に奉仕して偉いね♥ 偉い偉い偉い♥

【低めに、いきなりトーンを少し下げて、意地悪に。

※『絶対に聞き手をドキツとさせる』という感じでお願ひします※】
でも足んない。もっと頑張れ?♥

【あっさり元のトーンに戻って。

低めに、あまあまに優しい声で意地悪を言って煽る。

『お礼』 Ⅱ 『尻尾に快感を与える事』

『びゆくびゆく』 Ⅱ 『噴射』

『バカメス』 Ⅱ 『性欲に負けた、動物的な愚かな女性』

大好きなサキユバス尻尾に、まんこでお礼しろ♥

一杯びゆくびゆくしてもらえるように、気持ちいところに擦り付けて頑張って媚びろ?♥

■もっと下品な言葉は思いつくが、『バカメス』が限界。これ以上酷い言葉で罵るなんて、たとえ主人公が喜ぼうと、とてもできない

『ほじってもらってありがとうございます』って、媚びて媚びてお礼する、バカメスの

仕事しろ♥

【甘ったるく、ちよっと困ったように。

煽るよりも『本当に困惑している』感じで。

それがかえって『ドM向けの言葉責め』になる感じで」

…：何（なん）でこんな事言われて締まんの？♥

【あまあまに、不服そうに。

『むかつく。理解できない。でも好きだから許しちゃう』という感じで
優しくしたいのに。最悪。最悪。ほんとド変態♥

【あまあまに煽る。一つ毎に少し間をあけて」

マヅ♥ マヅ♥ マヅ♥

ほらちゃんと腰振れ？♥

【気持ちよさそうに、苦しそうに。もう負けそう。

『頑張れ』も実際は、自分自身に言っているようなもの】

そう…：そうっ…：そうっ…：うっ♥

頑張れ頑張れ頑張れ♥

【低い声でうっとり。

主人公の事が、可愛くて可愛くて仕方ないという感じで」

あゝ…：その顔めっちゃ効く…：♥

【『マヅすぎて、マジ可愛い』と言おうとして、とぎれとぎれになる】

ほんとにやってるの、マヅすぎっ、っっ、マジ可愛い…：♥

【※12回※ ものすごく気持ちよさそうに、早く、苦しそうに呼吸する】

はあはあ、はあはあ、はあはあ、はあはあっ。

はあはあ、はあはあ、はあはあ、はあはあっ ♡

【低い声で、実感を込めて】

あく可愛い。

【低めに、だんだん少し早口気味になる】

めっ、ちや好き。大好き ♡

あく好き。好き好き好き。すっごい好き ♡

ほんと可愛いね。むかつく。ああ好きっ ♡

■ 絶頂が近づく

【低い声で興奮気味に、物凄く気持ちよさそうに。

どんだん言葉にならなくなっていくほど気持ちいい。

『効くⅡものすごく気持ちいい』。

『深いやつⅡ深い絶頂』

うっ……あ…… ♡

あく……お礼効く……っ。

……すっ……ごい深いやつ来る…… ♡

【快感に負けて、うっとり。

すっかり素に戻ってしまいなから」

うあ……やば……すっご……♡

【低めに、だんだん少し早口気味になる】

あっ……気持ちい……♡

やば。やばいかも」

▲7 ここでSE16が17に切り替わる

SE17 詩音がしっぽを主人公の膈内で動かす音2

【最初から最後まで流す】

【繰り返し流す】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

【少し大きめの音量で流す】

▲8 でフェードアウトする】

●【1】

【※12回※ ものすごく気持ちよさそうに、早く、苦しそうに呼吸する】

はーすうはーすうはーすう、はーすうはーすうはーすう♡

「あ、あいつ……く。」

【※赤文字で詩音が絶頂する※】

ものすごく気持ちよさそうに、早口気味に一気に言う。

特にわかりやすく気持ちよさそうな演技にする事で、絶頂ポイントをわかりやすく伝えて下さい】

イクイクイクイクイクイク

【※6回※ ものすごく気持ちよさそうに、早く、苦しそうに呼吸する】
はあすうはあすうはあすう。

■再び絶頂が近づく。今度は、主人公も絶頂しそう

【さらに絶頂が近づく。

うわごとのように、もう一回絶頂しそうになって。

必死にこらえようとしますが、全然勝てない、という感じで】

イツ、く。イツ……

くううううう……

〈主人公〉

「あああああ……！」

●【1】

「【※】ここで詩音が絶頂する※

何度もびくっ、びくっと痙攣して、その度に分泌液が大量に射出されていくイメージで。

一行ごとに少し間があく感じで。

特にわかりやすく気持ちよさそうな演技にする事で、絶頂ポイントをわかりやすく伝えて下さい」

「あゝあゝっ……………」

「あっゝあっゝあっゝあっゝ。

……………あ！♡」

▲8 ここではSE17がフェードアウトする

SE18 詩音がしっぽから、分泌液を主人公の膣内に流し込む音5

【最初から最後まで流す】

【3回繰り返して流す】

【大きめの音量で流す】

【少しこもった印象の、身体の内側から聞こえてくるような音にする】

【次の『詩音』のセリフと同時に流す】

●【1】

「【※12回※】ものすごく気持ちよさそうに、早く、苦しそうに呼吸する。

段々少しずつゆっくりになって、落ち着いていく」

はあすうっ♡ はあすうっ♡ はあすうっ♡

はあすうっ♡ はあすうっ♡ はあすうっ♡……♡

「苦しそうにしつつも、必死に余裕ぶって。

また低く、優しい声で意地悪を言う。

謝ってこそいるものの、ほんの少しも悪びれていない感じで。

主人公をもっといじめてやりたいし、もう一回、ダメ押しの様に興奮させて満足させた

い」

「ああ……ごめんね♡

これでもう、あたしとバスでめっちゃキスしてたって、噂になっちゃうね♡

ごめんね委員長。

あたし達、付き合ってるし、我慢できなくて外でも盛（さか）ってる位イチャついてる

って、皆（みんな）に知られちゃうね……♡」

●※移動※

●【3】

■主人公の右耳側に頭を置いて、耳元に話しかける

「【※※※までささやく※】

苦しそうにしつつも、必死に余裕ぶって。

また低く、優しい声で意地悪を言う。「何が何でも興奮させてやる」という気持ちで。

※『絶対に聞き手をドキッとさせる』という感じでお願ひします※】

……でも、中出しされて腰びっくんびっくんして喜んでるの見られるよりは良かったでしよ？♥

【『マーキングびゅっびゅ』で一つの単語】

マーキングびゅっびゅの間ずっとイッてて♥

お目目うるうるさせながら痙攣して♥

サキユバス汁（じる）飲みたくて子宮ずつとびくびくしてたよお、って噂になるよりはいいよね♥】※

〈主人公〉

「っ……っ♥」

●※移動※

●【1】

■挿入したままの尻尾がぎゅうつと強く締め付けられて、今の言葉で主人公が興奮した事がよくわかる。つくづくマゾの主人公に呆れてしまいなながらも、結局好きでたまらないという気持ちになる

「【低めに、あまあまに、ちよつと呆れたような声で。

『正直ちよつと引いてしまふほど呆れているけど、でもそこが好き』と言うのがあからさまな感じで」

ああ〜……♡

●※少し間をあけてから※ 話す

ほんっ……とに……。

こんなんで喜んでて、ほんつと……♡

ほんっ……とムカつく。

ほんとに、エロすぎ……♡

●※少し間をあけてから※ 話す

【声が優しくなつて】

……でも」

●※移動※

●【3】

「【※※※までささやく※

低めに、優しく、精一杯いたわるように。

『ひとつ前も本音だが、本当に伝えたいのはこちら』という感じで
大好きだよ。いいんちよ……♡

これからもずっと、ずっとしようね……♡

ここでフェードアウトして終了。